



1. エントランスロビー
2. 馬蹄形3層バルコニーの壮大な大ホール
3. 西側、メインエントランスへのアプローチ



日建連表彰2021



第62回BCS賞

# 東大阪市文化創造館

選定理由 【選考委員】  
後藤春彦・安田俊也・徳久光彦

旧市民会館、旧文化会館の老朽化に伴い、それらの機能を集約した一、五〇〇席の大ホールと三〇〇席の小ホールからなる文化創造館がPFI事業によって建設された。本プロジェクトにおいて特に高く評価されたのは、街と施設の接点に置かれたオープンスペースが地域にかけがえない公共空間として根付いていることと、芸術文化による社会包摂までを視野に入れた運営である。そして、この二つが補完しあうことで、劇場を単なる鑑賞の場から、市長の言葉を借りれば「魔法の栄養」となる、地域にとってかけがえのない場・機能へと昇華されていることである。

敷地は、大阪の東部を南北に貫く古くからある街道沿いに面する、町工場が集積する低層高密度の市街地の中に用意されている。大小二つのホールを計画するには、決して広くはない敷地条件であるが、劇場建築として高度で複雑な機能を破綻なく、コンパクトにまとめ上げることで創出された二つのオープンスペース（街角広場および、棟敷ピロティ）は、中小の建物が密集する地域の貴重な余白となり、ホールを地域共有の公共スペースへと昇華させている。現地調査においても、多くの市民がここを居心地のよい場所だと認知して使い込んでいる様子が見えられた。二二層のキャンチレバーによって生み出された都市的な縁側状空間は、棟敷テラスに特に目的もなく佇む多くの市民の姿は、イベントが企画されていない普通の平日においても街中の新たな風景となり、街道に面する少し雑然とした「ものづくりの街」と「芸術文化」を気負うことなく接続している。

また、「町工場の集積地」東大阪市に今までにない「栄養」を与える施設としたいという建築主の熱い思いにこたえるため、施設運営は、まずスタッフ全員へ公共を担うという意識を共有することから始めている。アウトリーチ活動など、単なる鑑賞のための箱であることを超え、芸術文化による社会包摂にまで活動（企画運営）のウイングを広げ、芸術文化を地域の持続性に繋げるPFI事業の好例として特筆したい。優れた音響性能を持つ上質な鑑賞空間の実現や、大・小ホールおよび多目的室の同時利用時の重低音の躯体振動伝搬を抑制するエキスパンション・ジョイント対応、劇場建築におけるCASBEESランク（BEEⅡ四・八）の取得、狭小敷地における施工手順の工夫や施工への市民参加（特に子ども）など、全般にわたって技術的に派手な目新しさはないが、一歩一歩でもよりよい方向に進めるという誠実な姿勢が、良質な公共空間を生み出していることも評価された。

## 東大阪市文化創造館 概要

- 所在地 大阪府東大阪市御厨南2-3-4
  - 建築主 東大阪市、PFI東大阪文化創造館(株)
  - 設計者 (株)佐藤総合計画、(株)大林組、(株)永田音響設計、(株)プレイスメディア
  - 施工者 (株)大林組
  - 竣工日 2019年6月14日
- 敷地面積 13,975㎡
  - 建築面積 7,862㎡
  - 延床面積 14,934㎡
- 階数 地上5階、地下1階、塔屋3階
  - 構造 鉄筋コンクリート造、一部鉄骨鉄筋コンクリート造・鉄骨造



詳細や他の写真などは左記のQRコードからWebページにアクセスしてご覧ください。

《日建連表彰2021 第62回BCS賞受賞作品》 有明体操競技場／大宮区役所・大宮図書館／軽井沢風越学園／The Okura Tokyo／大倉集古館／渋谷ストリーム／昭和電工（大分県立）武道スポーツセンター／大丸心斎橋本店／高崎芸術劇場／知立の寺子屋／日本橋室町三井タワー／日本橋スマートエネルギープロジェクト／東大阪市文化創造館／福田美術館／松原市民松原図書館 「読書の森」／ミュージアムタワー京橋／ミライオン（長崎県立長崎図書館、大村市立図書館、大村市歴史資料館）

BCS賞

BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計、施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2021年で62回を数えました。